

シーカヤッカーの体験と期待及び満足に関する調査研究

0714049 吉田麻枝 (海洋スポーツ・健康科学研究室)

I. 目的および方法

本研究ではシーカヤック (Seakayak:以下 SK と略記) に対する期待と目的、SK 実施時の満足度に影響を与える要因、SK 実施時の感覚体験頻度を明らかにすることを目的とした。SK ショップに質問紙を郵送し、留置法により調査紙に記入してもらった。質問紙の内容は、「SK への期待」、「SK の満足度に影響を与える要因」、「SK で得られる感覚・感情」の3つの設問で、計58問である。全ての質問に対し、「1. あてはまらない」から「5. あてはまる」までの5段階評定尺度を用い、選択形式で回答してもらった。回収できた203部のうち有効な回答が得られた200部を分析対象とした。参加者の経験レベルについては、1年未満64名(以下、初心者群)、1年から5年の84名(以下、中級者群)、6年以上の46名(以下、上級者群)の3群に分類し、比較・検討した。得られた回答については統計ソフト SPSS ver. 11.0 for windows を用いて解析した。

II. 結果

SK への期待・目的では「自然を感じる事」、「陸からは見られない風景が見られる事」、「日常とは違う生活をする事」、「休日を充実させる事」の項目で平均値が高かった。また、男性は女性に比べ、SK を実施するための技術や知識を求め、女性は男性に比べ、休日を充実させることや自然を感じることを求めている。経験レベルでは中級者群および上級者群は、初心者群より、「天候を予測する技術を身につけられる事」、「遠征の技術を身に付ける事」、「パドルの技術が身につけられる事」、「文化の継承をする事」、「旅ができる事」を求めている。

SK 実施時の満足度に影響を与える要因では、「風の強さや向き」、「安全が保たれているかどうか」、「自己の健康状態」、「天候の良し悪し」、「自己の体力レベル」などが高く、天候と参加者自身の体調や体力が満足度に影響を与えていた。女性は男性に比べ、「トイレの有無」、「風の強さや向き」、「天候の良し悪し」の項目において平均値が高かった。「カヤックやパドルの種類」、「自己のカヤッキングスキル」においては経験年数が長いほど平均値が高くなり、「トイレの有無」、「シャワー・更衣室の利用施設の良し悪し」では、経験年数が短いほど平均値が高かった。

SK 実施時の感覚体験頻度では、SK 実施時に、「楽しさ」、「充実感」、「自然との一体感」などのポジティブな感情や自然とのふれ合いといった感覚を高い頻度で体験していた。女性は男性に比べ「感動」、「時間を忘れる」、「充実感」、「興奮」、「幸福感」を、高い頻度で体験していた。経験年数による比較では、「時間を忘れる」、「安心感」は経験年数が高いほど、「非日常」は中級者群より初心者群の方が高い頻度で体験していた。「無心」は上級者群より中級者群が高い頻度で体験していた。

III. 結論

SK に対する期待と目的、SK 実施時の満足度に影響を与える要因、SK 実施時の感覚体験頻度を明らかにするとともに、それらに性差および経験差が影響することが明らかとなった。

IV. 主要参考文献

- 1) 本田美美子 (2007) 「スクーバ・ダイビングがダイバーに与える心理的効果」 東海大学大学院修士論文